

「令和4年度 第35回大井川大花火大会」開催について

「新型コロナ感染症の動向」を受けて、令和4年8月10日(水)の大井川大花火大会について以下のとおり対応して開催する。

【観光協会・観光課の対応】

1. 栈敷席(スポンサー招待席)

- ・ 栈敷への招待客は、協賛企業が招待者を確認でき、何らかの際には連絡可能。
- ・ 基本的に飲食は控える ※熱中症対策のための飲み物のみ可
- ・ 受付でのサーモグラフィ検温器による検温チェック ※有症状（発熱等）の場合、入場を拒否

2. 出店

- ・ 河川敷での屋台などの出店をしない

3. 感染防止策

(1)飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底

①マスク着用の監視、個別注意（推奨範囲）

観覧会場に警備員を配置し、観覧状況からマスク着用が推奨される観覧客に対し着用を促す指導を行う。

開催告知段階から、観覧マナー・ルールとして明記、周知する。

②大声を出す者に対する個別注意

観覧会場に警備員を配置し、大声を出す者に対し個別注意を行う。

開催告知段階から、観覧マナー・ルールとして明記、周知する。

③場内アナウンスによる継続的な注意喚起

観覧会場及びその周辺に対し、場内アナウンスを活用して、マスクの着用推奨、大声での会話の自粛などを継続的に呼びかける。

(2)手洗、手指・施設消毒の徹底

①会場受付への手指消毒液の常備

観覧会場の受付に手指消毒液を常備し、消毒の徹底を促す。

②仮設トイレの定期的な消毒

河川敷内の仮設トイレを、主催者側で定期的に、かつこまめに消毒する。

③場内アナウンスによる継続的な注意喚起

観覧会場及びその周辺に対し、場内アナウンスを活用して、手指の消毒や手洗いの徹底を継続的に呼びかける。

(3)来場者間の密集回避

①余裕をもった観覧席の設置

観覧会場内の観覧席（栈敷席）をブルーシートにより区割りする。この際、ブルーシートの間隔を広くとり、観覧客がグループ単位で密集を避けられるよう工夫する。

②場内アナウンスによる継続的な注意喚起

観覧会場及びその周辺に対し、場内アナウンスを活用して、密集した観覧の回避を継続的に呼びかける。

(4)スタッフ等の健康管理の記載

①スタッフの健康管理

スタッフは、開催2週間前から検温等の健康チェックを継続して行い、体調管理を徹底した上で出役させる。

②開催当日・開催後の感染対策

開催当日はイベント従事中のマスク着用、手洗い、手指消毒を徹底する。

また、従前からの健康チェックと同様に、開催後1週間も引き続き検温等の健康チェックを行う。

(5)静岡県の新型コロナ感染症対策のチェックリストを公開

・(一社)島田市観光協会のHPにて「感染防止策チェックリスト」を公開し、静岡県の定める基本的な感染防止策を行っている旨を周知している。

イベント開催時のチェックリスト

【第1版（令和3年11月版）】

開催概要

大井川河川敷を会場に、島田側・金谷側合わせて約8,000発の花火を打ち上げる、夏の恒例イベント。

イベント名

第35回大井川大花火大会 (<http://shimada-ta.jp/index.php>)

出演者・チーム等

開催日時

令和4年 8月10日 19時15分 ~ 21時00分

(予備日：令和4年8月27日(土))

開催会場

大井川河川敷

会場所在地

JR東海道本線大井川鉄橋と県道島田岡部線大井川橋の間

主催者

一般社団法人 島田市観光協会

主催者所在地

島田市金谷新町14-2 (かなや会館内)

主催者連絡先

(電話番号)

0547-46-2844

(メールアドレス)

kankou@shimada-ta.jp

収容率(上限)



100% (※)
(大声なし)



人と人が触れ合わない
程度の間隔



50% (※)
(大声あり)



十分な人と人との間隔
(できるだけ2m、最低1m)

収容人数

島田側棧敷席約6,000人、金谷側棧敷席約3,000人

参加人数

島田側棧敷席約3,000人、金谷側棧敷席約1,500人

その他特記事項

花火観覧中のマスク着用を促し、大声での会話を慎むよう場内アナウンスにより継続的に呼びかけを行います。
また、会場内に巡視員を配置し、個別に声掛けを実施します。

(※) 大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントは「大声あり」に該当することと整理する。

感染防止策チェックリスト

【第1版（令和3年11月版）】

基本的な 感染防止

イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。

※5,000人かつ収容率50%超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

①飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底



【大声なしの場合】
飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（不織布マスクを推奨。以下同じ。）の正しい着用や大声（※）を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる。

（※）大声の定義を「観客等が、①通常よりも大きな声量で、②反復・継続的に声を発すること」とする。

【大声ありの場合】
「大声なしの場合」の「大声」を「常時大声を出す行為」と読み替える。

②手洗、手指・施設消毒の徹底



こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す（会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施。）。



主催者側による施設内（出入口、トイレ、共用部等）の定期的かつこまめな消毒の実施。

③換気の徹底



法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上・1回に5分間以上等）の徹底。 ※屋外のため該当なし

④来場者間の密集回避



入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施。



休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築。



大声を伴わない場合には、人と人とが触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離の確保

感染防止策チェックリスト

【第1版（令和3年11月版）】

基本的な 感染防止

イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。

※5,000人かつ収容率50%超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

⑤ 飲食の制限



飲食時の感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底。



飲食中以外のマスク着用の推奨。



長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛。



自治体等の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討。）。

⑥ 出演者等の感染対策



有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常から出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する。



練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。



出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等必要な場合を除く。）。

⑦ 参加者の把握・管理等



チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ等を活用した参加者の把握。



入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかった際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止。



時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起。

上記に加え、各業界が定める業種別ガイドライン（該当する業種において策定されている場合）を遵守すること。

